

彦根城

世界遺産登録推薦書（素案）の要点



彦根城の価値は、世界的にも注目されている「江戸時代の250年間の安定・平和」に注目している。それには「藩」という存在が大きな役割を果たした。

「藩」は、将軍によって近世城郭に配置された大名が組織する地方政府である。

その統治拠点となる城郭の内部には、大名の御殿と、重臣の屋敷が構えられ、政治の意思決定や儀礼の空間など、藩の運営に必要な全ての施設が、その内部に営まれていた。また、天守を頂点に櫓や石垣、水堀が重なり合う象徴的な形態を持ち、周囲の町や村、琵琶湖の湖上などから見ることもできた。

この二つの特徴を持つ近世城郭は、単に統治拠点として機能したのみならず、将軍から配置された大名が、武力や伝統に拠らず、将軍の権威を唯一の根拠として、領地の安定に専念したこと、また、大名と重臣たちが形成した藩は、在地の権利や権益から離れ、一体的になって「藩」の政治を行ったという、江戸時代の統治の仕組みを、具体的に示すものでもあった。そして、この仕組みこそが、世界に類を見ない独特のもので、戦国時代からの争乱に終止符を打ち、その後の安定の維持を可能にした。

全国150の近世城郭の中でも、彦根城は、江戸時代初期に、その仕組みを忠実に反映して築造され、その後も長くその姿が維持され、現在までその特徴を良好に伝えている。

彦根城の顕著な普遍的価値の概要

17～19 世紀の世界と日本

16 世紀は、大航海時代の結果、地球規模のネットワークが形成され、社会の変化が促された。

その結果、17 世紀～19 世紀は、世界の各地、各国で、国や社会の在り方が再編成され、現代にも通じるような社会や文化の在り方が形成された。

日本の江戸時代もその一例であり、2 世紀半にわたって安定した社会秩序を維持することに成功し、数多くの日本文化や伝統が生み出された。

そして、この江戸時代の統治において重要な役割を果たしたのが「藩」である。

江戸時代の統治の特徴

地方の政府である「藩」を組織したのが大名である。大名は、将軍の権威によって、各地に配置され、それを根拠に領地の統治を進めた。

また、大名は、本来、個別の領地を持っていた重臣層を大名のもとに集め、一体となる統治のための組織を形成し、合議によって政治を進めた。

その結果、大名は武力により統治の権威を示すことも、領地を守ることも、他の領地を攻める必要もなくなり、領地の安定に専念できた。

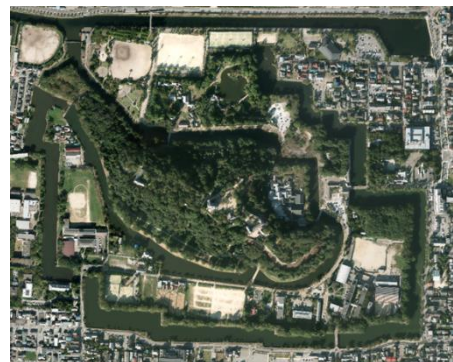
江戸時代の統治の特徴が反映する近世城郭

全国に約 150 営まれた近世城郭は、それぞれ個性的な存在であるが、その空間構造と象徴的な形態という二つの特徴で共通し、この二つの特徴が、江戸時代の統治の特徴、「藩」の特徴を表現していた。

① 周辺から隔離した一体的な空間構造

石垣と水堀などによって明確に区画された空間の中に、大名と重臣が集住し、政治や儀礼に必要な施設も営まれた。

この空間は、大名と重臣たちが藩の政府を組織し、領地全体を一元的に統治していたことを示す。



② 象徴的な形態

天守を頂点とし、櫓や石垣、水堀、樹木が折り重なった城郭の形態が、城下町や周辺の村から効果的に見えるようにつくられた。

この形態は、幕府から権威を与えられ、統治の権限と責任を持つ藩の存在を象徴する。



当初の形態が維持され、保存された彦根城

彦根の藩主・井伊家は、常に将軍の近くで将軍を支えるべき、最も重要な地位の大名の1人である。そのため、江戸時代の初期に、幕府の命令によって彦根城の築城が開始された。井伊家は、幕藩体制の仕組みを反映した城郭の特徴である空間構造と形態を典型的に備える彦根城を、17世紀のうちに完成させ、19世紀半ばまで、その状態を維持し続けた。さらに、江戸時代が終焉した後、統治拠点としての役割を終えた全国の多くの城郭が失われた中で、地域の人々の総意によって破壊を免れ、地域の人々の心のよりどころ、町のシンボルとして現在まで大切に保存されてきた。

彦根城の保存管理の概要

資産範囲の大部分が、文化財保護法に基づく特別史跡に指定されており、行政、所有者、関係者が一体となり、万全の保存状態にある。また、資産の一部が、自然公園法に基づく琵琶湖国定公園特別地域にも指定されており、優れた自然環境地帯でもある。

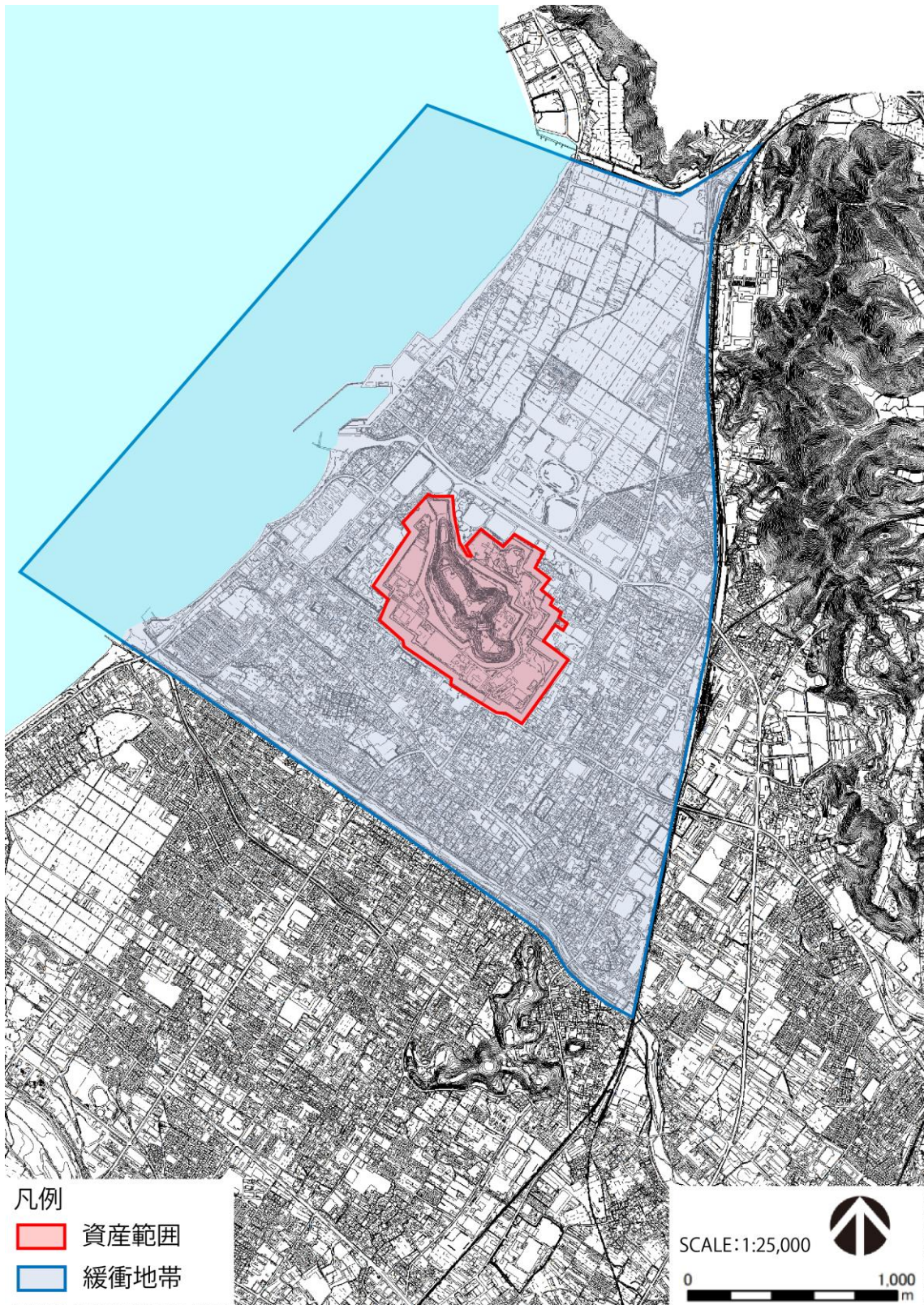
その周辺には、彦根城とともに成立し、発達した都市、城下町が広がる。この城下町を含み、かつ、彦根城が琵琶湖と密接な関係を持っていたことを示す範囲を含め、緩衝地帯を設定した。

緩衝地帯は、都市計画法、景観法等に基づく各種の条例や計画によって、彦根城とともに歩んできた歴史都市としての姿を良好にとどめている。今後も、これらの計画等によって、より相応しい町となるように取り組んでいくこととしている。

また、彦根城とともに成立した都市は、現在においても彦根城の保存・活用に係る地域コミュニティの中核となっている。人々のよりどころとして彦根城が存在するのみならず、観光産業の柱であり、学校教育、生涯教育の舞台などとしても積極的に利用されている。

来訪者に対しては、開国記念館と彦根城博物館の二つの施設を活用するとともに、ボランティアガイドをはじめとする民間団体の積極的な活動によって、その価値が伝達されている。





彦根城の資産および緩衝地帯の範囲(R4.6 現在)